

若年女性の東京圏転出入に関する意識調査結果

◆調査概要

調査対象	以下の条件に該当する、 18歳から39歳までの女性 ① 現在、 東京圏 ^{※1} 在住 で、 愛知県 での居住経験 ^{※2} がある ② 現在、 愛知県 在住 で、 東京圏 での居住経験 ^{※3} がある ※1 東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県 <small>の1都3県のこと</small> ※2 高校等卒業時・大学等進学時・大学等卒業後最初の就職時のいずれかで、一度でも「愛知県」での居住経験がある人 ※3 高校等卒業時・大学等進学時・大学等卒業後最初の就職時のいずれかで、一度でも「東京圏」での居住経験がある人
調査方法	インターネットリサーチ・サービスを活用し、Web上でのインターネット調査方式で実施
回答者数	① 東京圏在住者（愛知県での居住経験あり）：413人 ② 愛知県在住者（東京圏での居住経験あり）：202人
調査期間	平成30年1月16日（火）から1月29日（月）まで
調査受託者	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

◆集計・分析に当たっての類型分け

○ 質問項目1(1)から2(4)（次頁参照）については、回答者のうち、愛知県から東京圏に転出（または東京圏から愛知県に転入）したタイミングにより、以下の類型ごとに集計・分析を行った。

現在の居住地	類型		該当者数
東京圏	進学時流出型	大学等への進学の際に東京圏に転出	75
	就職時流出型	就職の際に東京圏に転出	42
愛知県	卒業時Uターン型	東京圏の大学等に進学し、就職でUターン	32
	就職後Uターン型	東京圏の企業等に就職した後、Uターン	34
	ずっと愛知型（※）	愛知県から転出していない	208

※「ずっと愛知型」は調査受託者である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が平成29年12月27日から28日までに実施した独自調査の結果によるもの

○ 質問項目3(1)から4(4)については、東京圏在住者、愛知県在住者の区分で集計・分析を行った。

目 次

1. 大学等進学時の行動や考え方

- (1) 東京圏または愛知県の大学等に進学した理由
- (2) 進学先を決める際に誰の意見を参考にしたか
- (3) 東京圏の大学等に進学した際に、将来Uターンすることを想定していたか

2. 就職時の行動や考え方

- (1) 東京圏または愛知県の企業等に就職した理由
- (2) 就職先を決める際に誰の意見を参考にしたか
- (3) 就職当時のキャリア形成に対する考え方
- (4) 就職活動の際に、愛知県内の企業等への就職も考えていたか

3. 働き方に関する考え方

- (1) 現在働いている理由
- (2) 働くことに対する考え方
- (3) 希望する結婚後・出産後の働き方
- (4) 愛知県の企業等に望むこと

4. 東京圏・愛知県で働くこと、暮らすことに関する考え方

- (1) 希望する働き方が実現できる環境が整っていると思うか
- (2) 希望する暮らし方が実現できる環境が整っていると思うか
- (3) 東京圏在住の女性に共感が得られそうな愛知の魅力
- (4) 若い女性が愛知県に定着するために必要なこと

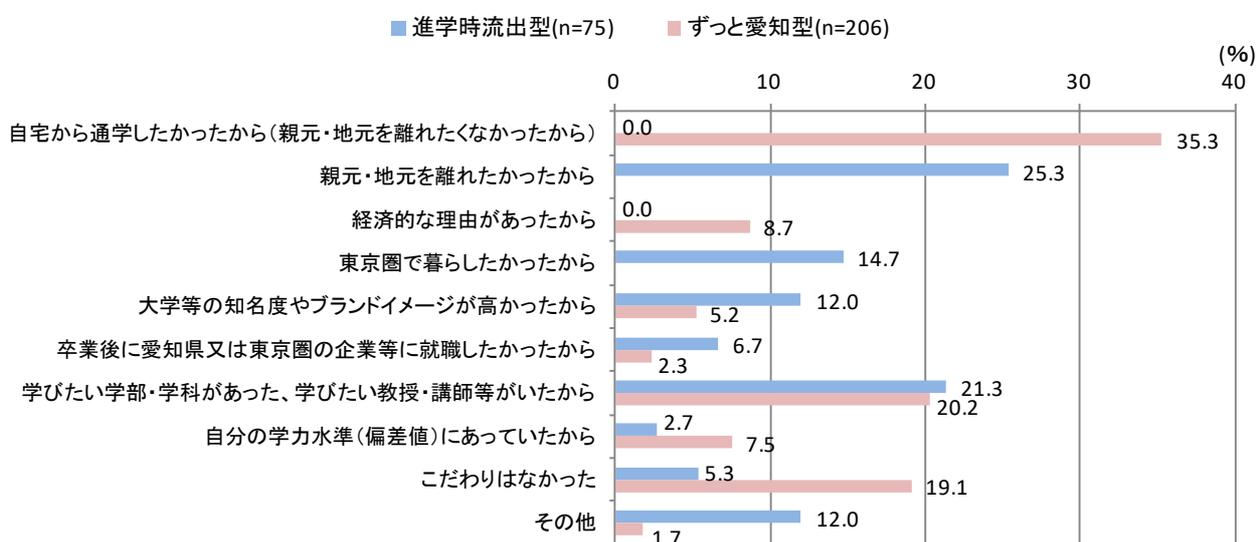
1. 大学等進学時の行動や考え方

(1) 東京圏または愛知県の大学等に進学した理由

「進学時流出型」の東京圏の大学等に進学した理由をみると、「親元・地元を離れたかったから」(25.3%)の割合が最も高く、次いで、「学びたい学部・学科があった、学びたい教授・講師等がいたから」(21.3%)、「東京圏で暮らしたかったから」(14.7%)の割合が高い。

一方、「ずっと愛知型」では、「自宅から通学したかったから(親元・地元を離れたいがなかったから)」(35.3%)の割合が最も高く、次いで、「学びたい学部・学科があった、学びたい教授・講師等がいたから」(20.2%)、「こだわりはなかった」(19.1%)の割合が高い。

図表 1：東京圏または愛知県の大学等に進学した理由（単一回答）

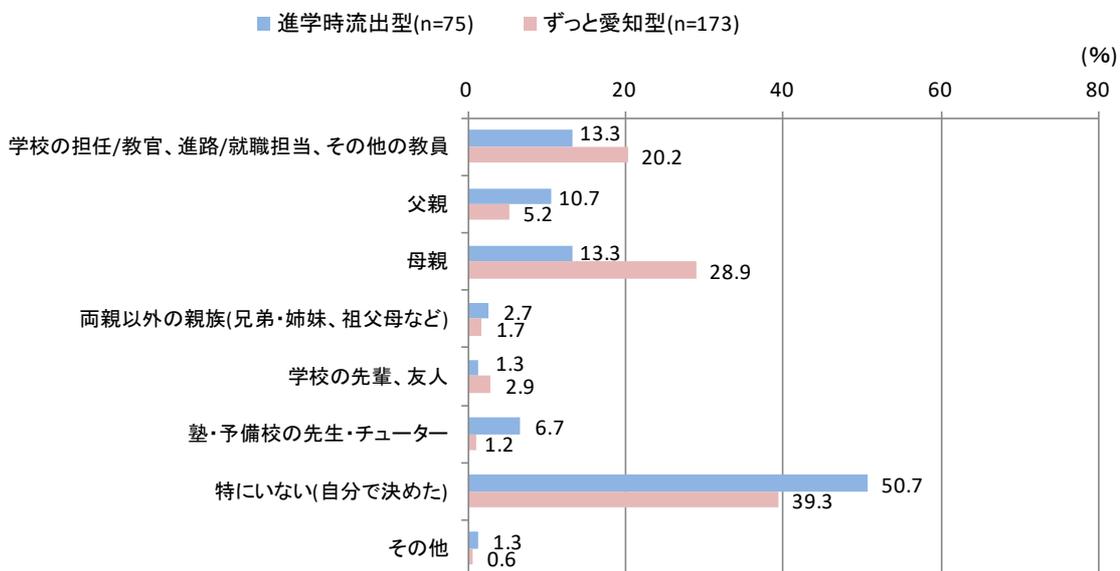


※「ずっと愛知型」には、「親元・地元を離れたかったから」、「東京圏で暮らしたかったから」の選択肢がない。

(2) 進学先を決める際に誰の意見を参考にしたか

進学先を決める際に誰の意見を参考にしたかについて、「母親」の割合が、「ずっと愛知型」では28.9%となっており、「進学時流出型」の13.3%を15.6ポイント上回っている。

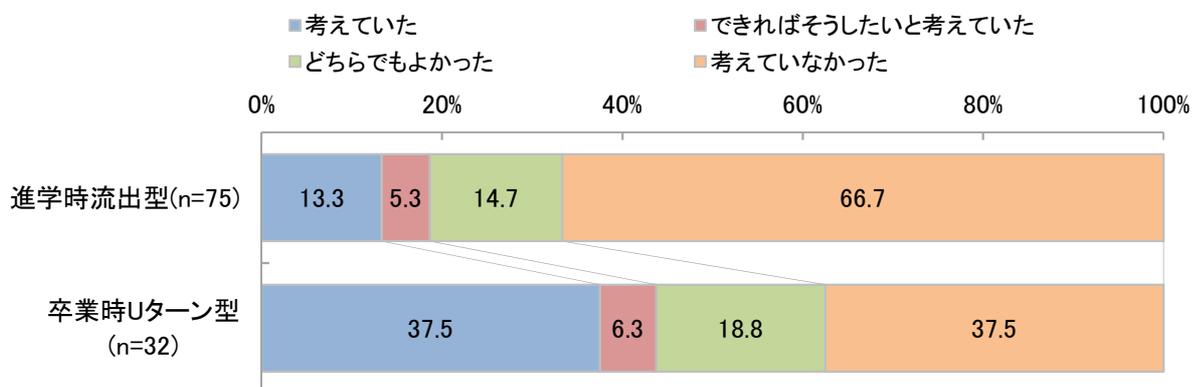
図表2：進学先を決める際に誰の意見を参考にしたか（単一回答）



(3) 東京圏の大学等に進学した際に、将来Uターンすることを想定していたか

「卒業時Uターン型」では、大学等進学時に将来Uターンすることを想定していた人の割合（「考えていた」と「できればそうしたいと考えていた」の計）が4割を超えており、「進学時流出型」の2倍以上となっている。

図表3：東京圏の大学等に進学した際に、将来Uターンすることを想定していたか（単一回答）

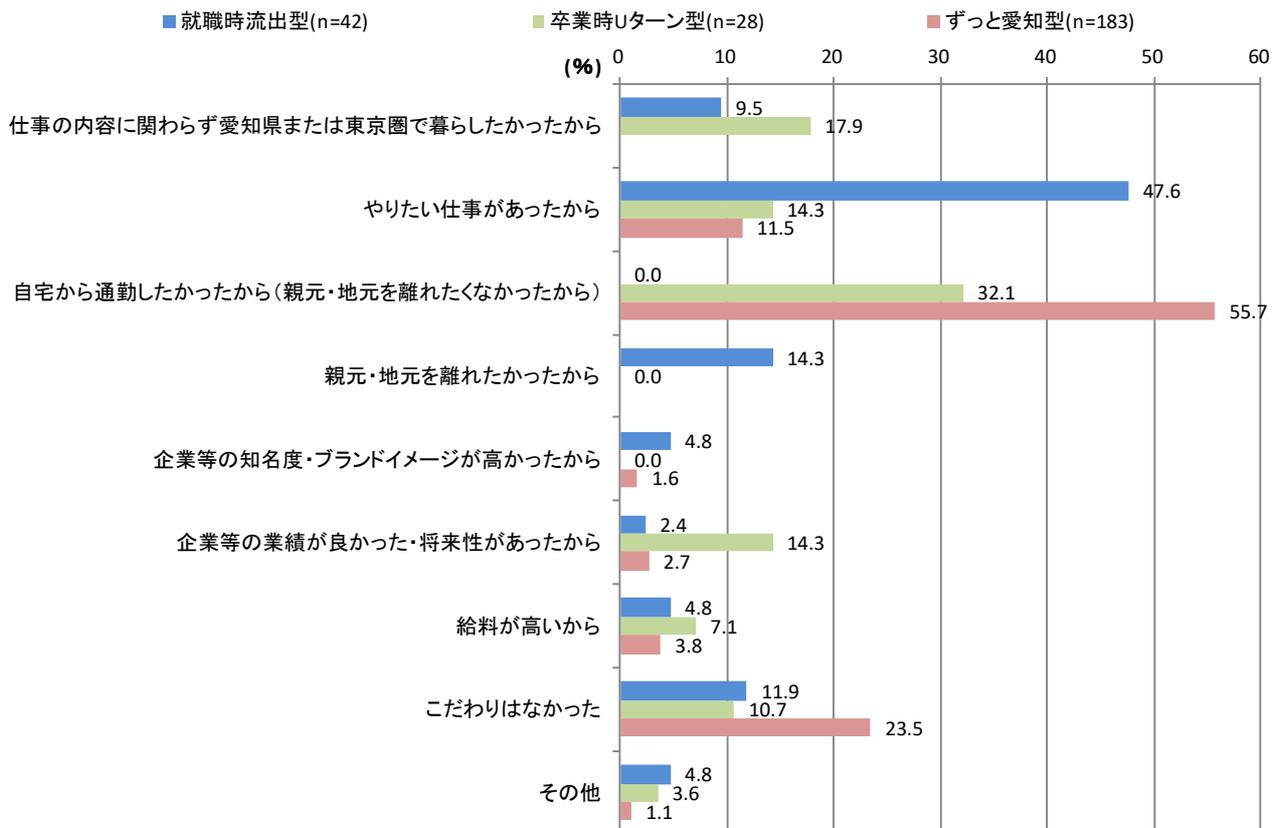


2. 就職時の行動や考え方

(1) 東京圏または愛知県の企業等に就職した理由

就職先の選択理由をみると、「就職時流出型」では、「やりたい仕事があったから」(47.6%)の割合が最も高い。一方で、「卒業時Uターン型」、「ずっと愛知型」では、「自宅から通勤しなかったから(親元・地元を離れたくなかったから)」(卒業時Uターン型:32.1%、ずっと愛知型:55.7%)の割合が最も高い。

図表4：東京圏または愛知県の企業等に就職した理由（単一回答）

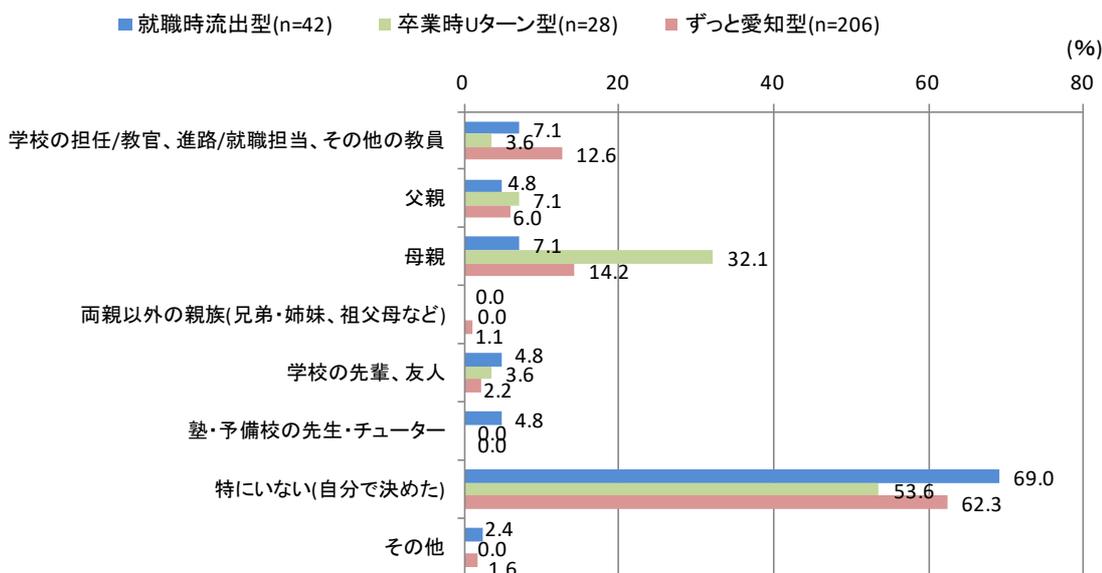


※「ずっと愛知型」には、「仕事の内容に関わらず愛知県または東京圏で暮らしたかったから」、「親元・地元を離れたかったから」の選択肢がない。

(2) 就職先を決める際に誰の意見を参考にしたか

就職先を決める際に誰の意見を参考にしたかについて、「就職時流出型」では、7割程度が「特にいない（自分で決めた）」と回答しているのに対し、「卒業時Uターン型」では、「特にいない（自分で決めた）」は5割強に留まり、「母親」の割合が32.1%と高くなっている。

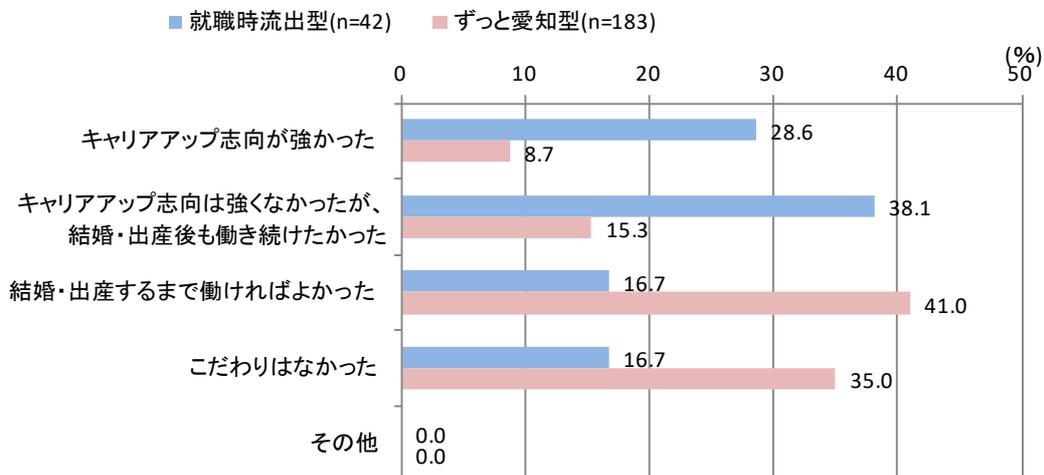
図表5：就職先を決める際に誰の意見を参考にしたか（単一回答）



(3) 就職当時のキャリア形成に対する考え方

就職当時のキャリア形成に対する考え方について、「就職時流出型」では、「キャリアアップ志向が強かった」(28.6%)、「キャリアアップ志向は強くなかったが、結婚・出産後も働き続けたかった」(38.1%)の割合が高く、「ずっと愛知型」を大きく上回っている。

図表6：就職当時のキャリア形成に対する考え方（単一回答）

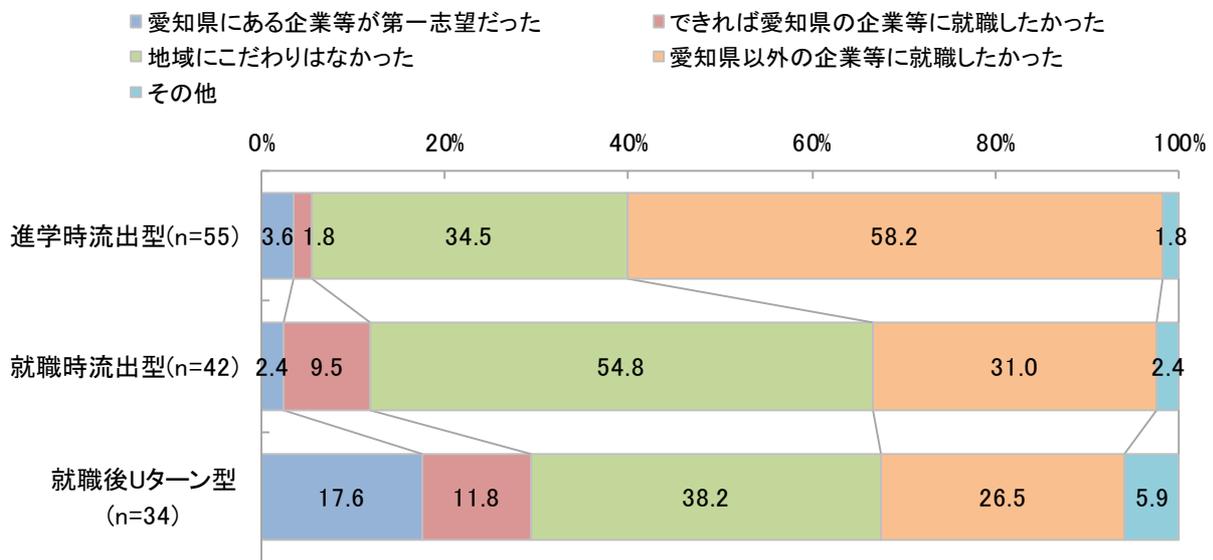


(4) 就職活動の際に、愛知県内の企業等への就職も考えていたか

就職活動の際に、愛知県内の企業等への就職も考えていたかについて、「進学時流出型」では、「愛知県以外の企業等に就職したかった」(58.2%)の割合が最も高く、「就職時流出型」では、「地域にこだわりはなかった」(54.8%)の割合が最も高い。

一方で、「就職後Uターン型」では、最初の就職活動の際に、「愛知県にある企業等が第一志望だった」(17.6%)、「できれば愛知県の企業等に就職したかった」(11.8%)の割合が他の類型に比べて高い。

図表 7：就職活動の際に、愛知県内の企業等への就職も考えていたか（単一回答）

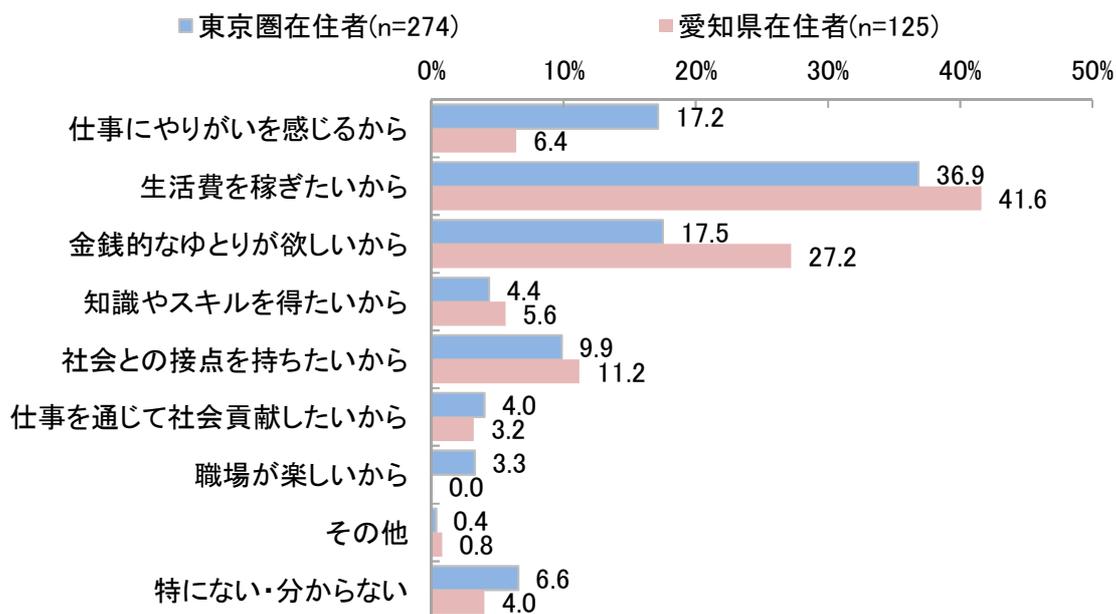


3. 働き方に関する考え方

(1) 現在働いている理由

現在働いている理由をみると、東京圏在住者では、「仕事にやりがいを感じるから」の割合が愛知県在住者を 10.8 ポイント上回っている。一方で、愛知県在住者では、「金銭的なゆとりが欲しいから」が東京圏在住者を 9.7 ポイント上回っている。

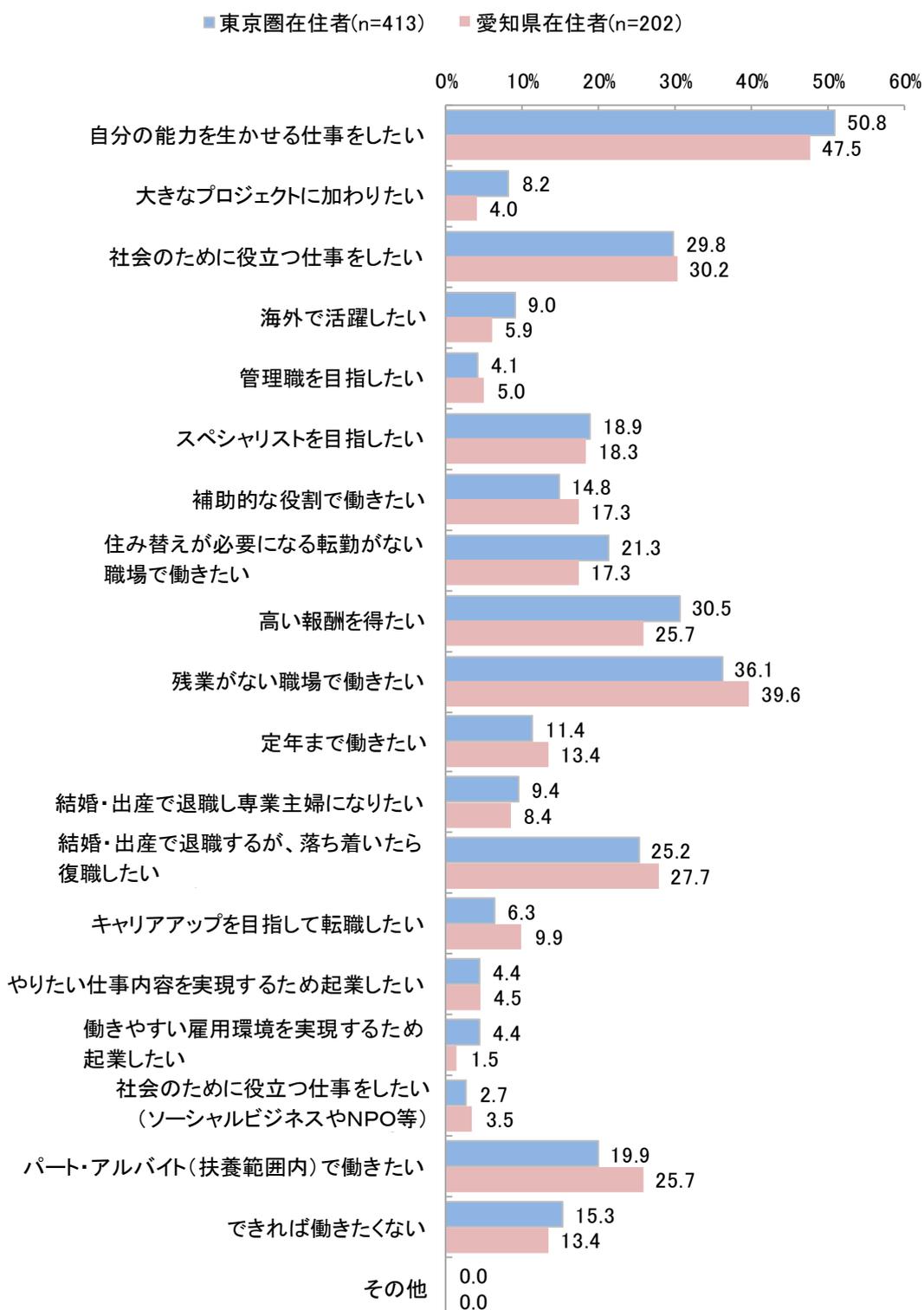
図表 8 : 現在働いている理由 (単一回答)



(2) 働くことに対する考え方

働くことに対する考え方をみると、東京圏在住者・愛知県在住者ともに、「自分の能力を生かせる仕事をしたい」（東京圏：50.8%、愛知県：47.5%）の割合が最も高く、次いで、「残業がない職場で働きたい」（東京圏：36.1%、愛知県：39.6%）の割合が高い。

図表 9：働くことに対する考え方（複数回答）

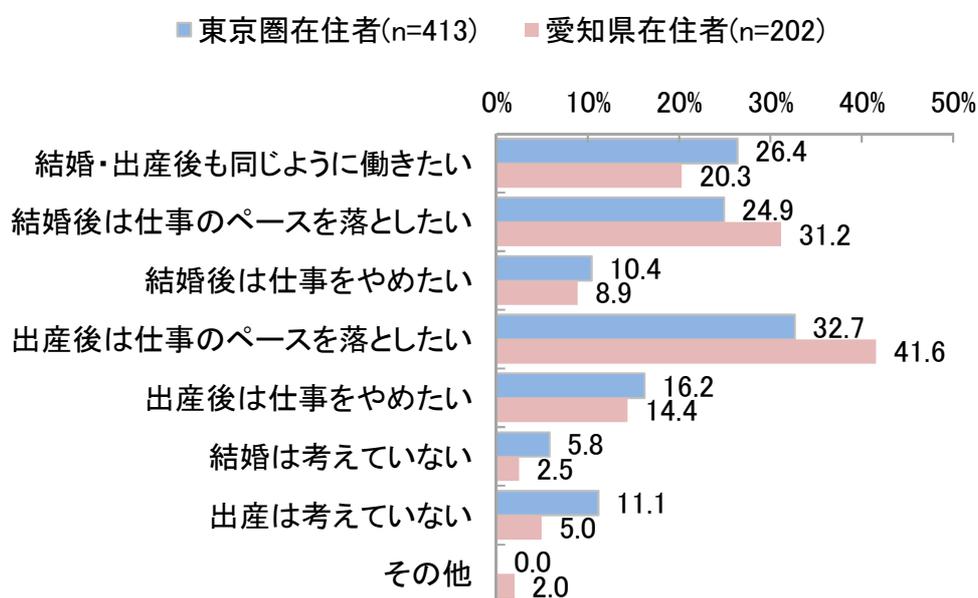


(3) 希望する結婚後・出産後の働き方

希望（理想）の結婚後・出産後の働き方をみると、「結婚・出産後も同じように働きたい」の割合は東京圏在住者（26.4%）が愛知県在住者（20.3%）を上回っている。

一方で、「結婚後は仕事のペースを落としたい」の割合は、愛知県在住者（31.2%）が東京圏在住者（24.9%）を上回るとともに、「出産後は仕事のペースを落としたい」の割合でも、愛知県在住者（41.6%）が東京圏在住者（32.7%）を上回っている。

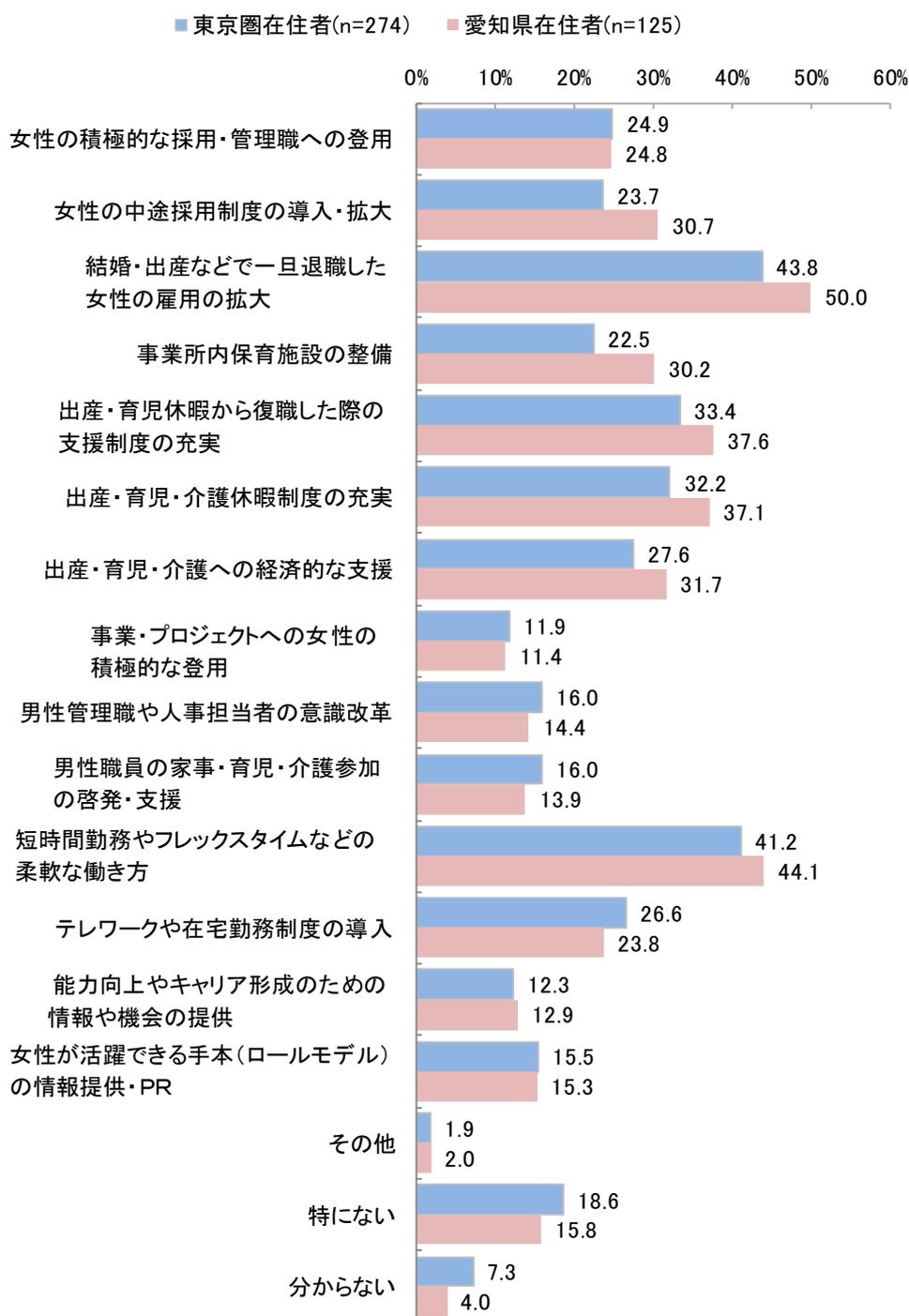
図表 10：希望する結婚後・出産後の働き方（複数回答）



(4) 愛知県の企業等に望むこと

愛知県の企業等に望むことは、東京圏在住者、愛知県在住者ともに、「結婚・出産などで一旦退職した女性の雇用の拡大」（東京圏：43.8%、愛知県：50.0%）の割合が最も高く、次いで、「短時間勤務やフレックスタイムなどの柔軟な働き方」（東京圏：41.2%、愛知県：44.1%）の割合が高い。

図表 11：愛知県の企業等に望むこと（複数回答）



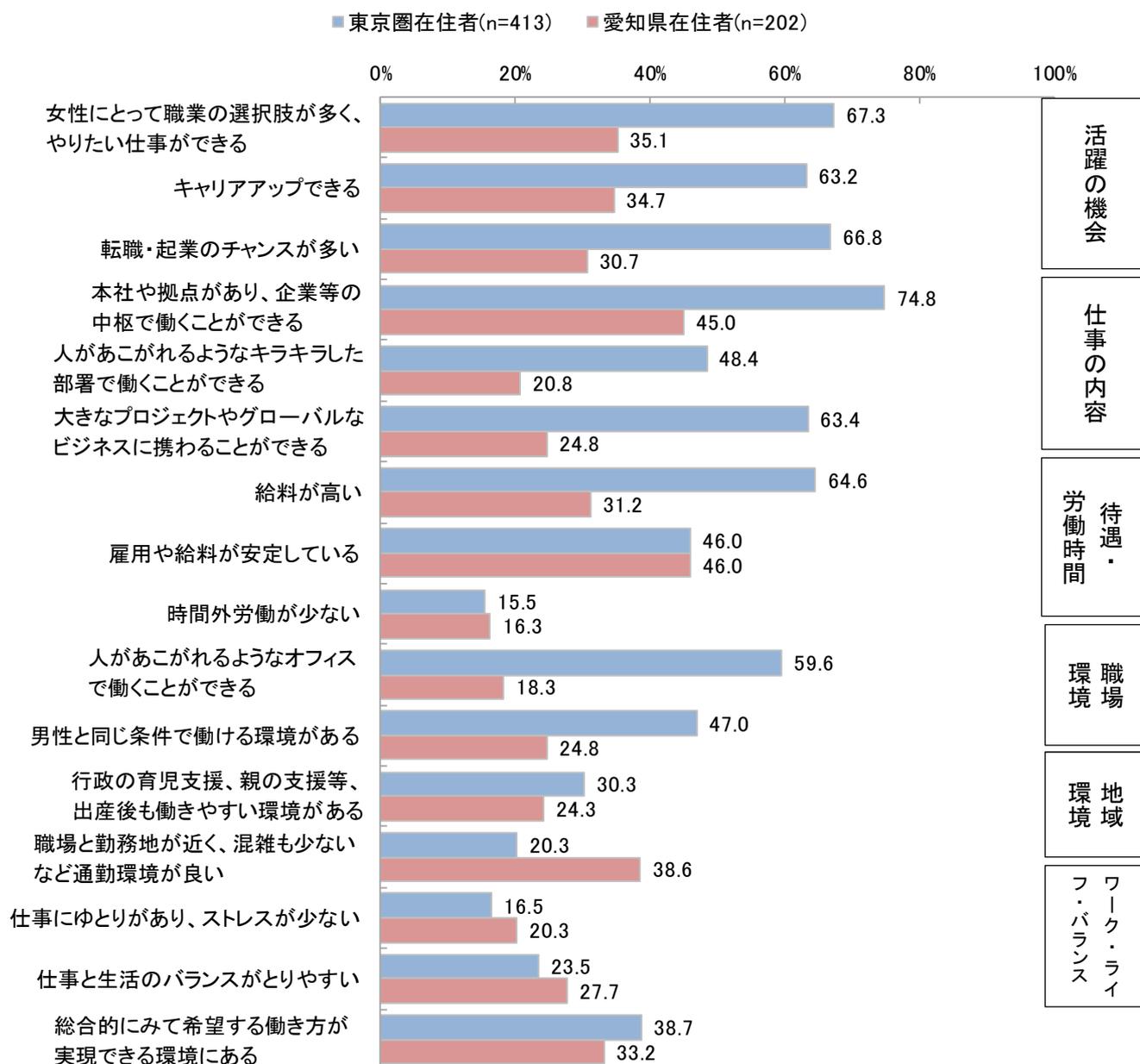
4. 東京圏・愛知県で働くこと、暮らすことに関する考え方

(1) 希望する働き方が実現できる環境が整っていると思うか

働く環境が整っているかについて、東京圏では、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」(74.8%)、「女性にとって職業の選択肢が多くやりたい仕事ができる」(67.3%)、「転職・起業のチャンスが多い」(66.8%)が上位に挙げられており、仕事の内容や活躍の機会、職場環境に関する項目で愛知県を大きく上回っている。

一方で、愛知県では、「雇用や給料が安定している」(46.0%)、「本社や拠点があり、企業等の中枢で働くことができる」(45.0%)、「職場と勤務地が近く、混雑も少ないなど、通勤環境が良い」(38.6%)が上位に挙げられており、通勤環境の良さやワーク・ライフ・バランスに関する項目で東京圏を上回っている。

図表 12：希望する働き方が実現できる環境が整っていると思うか（「思う」と「やや思う」の計）
（複数回答）

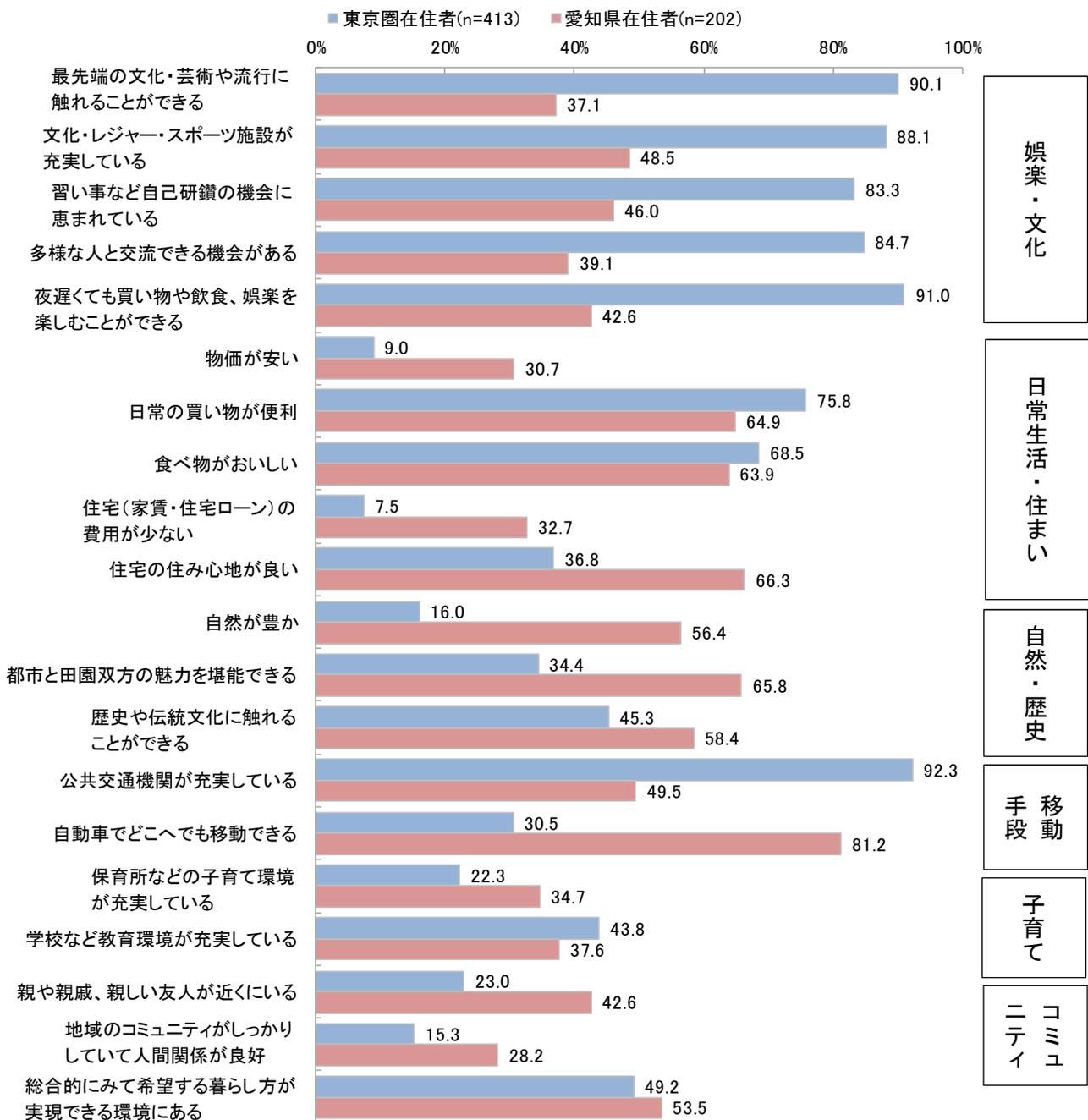


(2) 希望する暮らし方が実現できる環境が整っていると思うか

希望する暮らし環境が整っているかについて、東京圏では「公共交通機関が充実している」(92.3%)のほか、「夜遅くても買い物や飲食、娯楽を楽しむことができる」(91.0%)、「最先端の文化・芸術や流行に触れることができる」(91.0%)が上位に挙げられており、娯楽・文化に関する項目で愛知県を大きく上回っている。

一方で、愛知県では、「自動車でもどこへでも移動できる」(81.2%)、「住宅の住み心地が良い」(66.3%)、「都市と田園双方の魅力を堪能できる」(65.8%)が上位に挙げられており、東京圏を大きく上回っている。

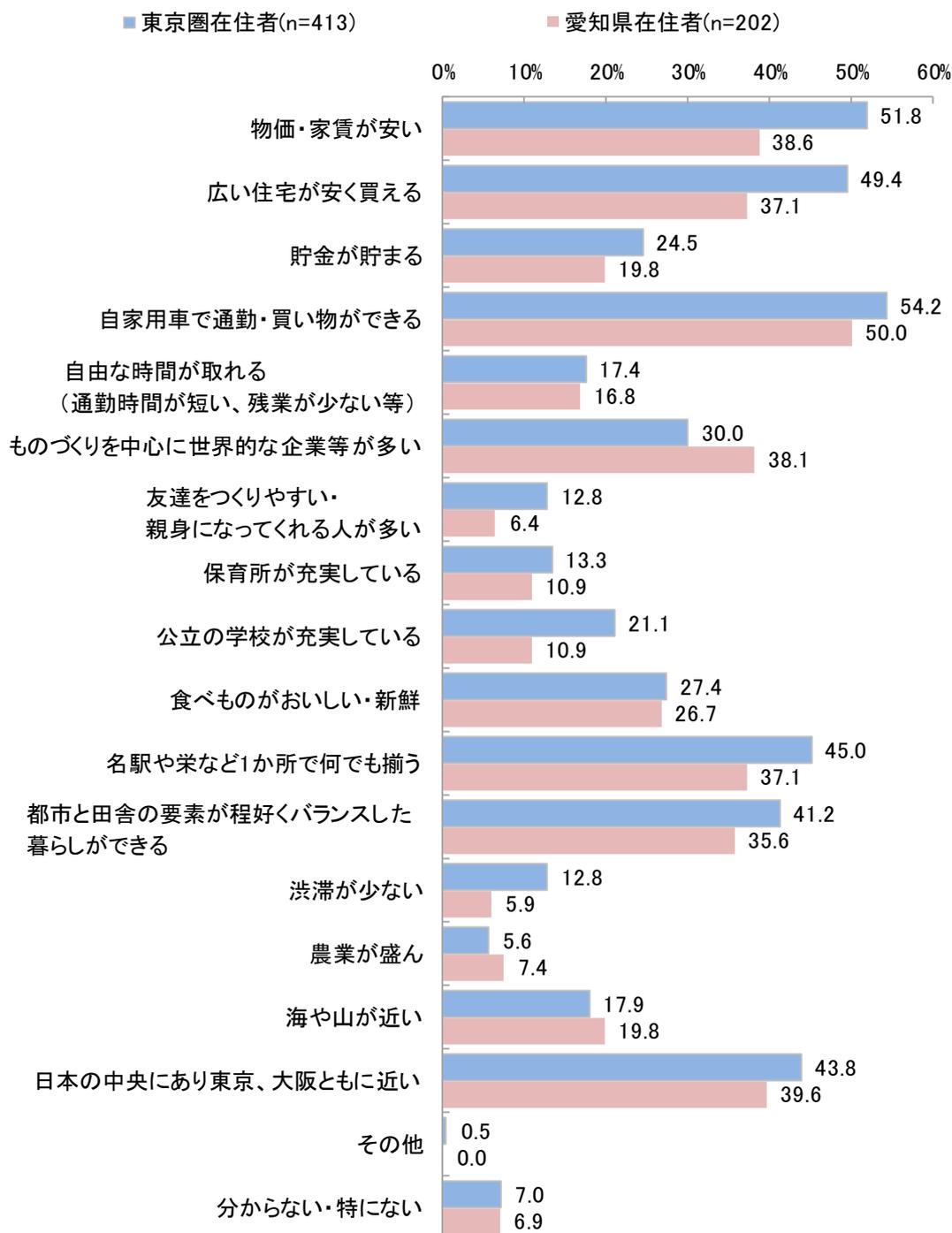
図表 13: 希望する暮らし方が実現できる環境が整っていると思うか(「思う」と「やや思う」の計)
(複数回答)



(3) 東京圏在住の女性に共感が得られそうな愛知県の魅力

東京圏在住の女性に共感が得られそうな愛知県の魅力については、東京圏在住者では、「自家用車で通勤・買い物ができる」(54.2%)の割合が最も高く、次いで「物価・家賃が安い」(51.8%)、「広い住宅が安く買える」(49.4%)の割合が高い。

図表 14：東京圏在住女性に共感が得られそうな愛知県の魅力（複数回答）



(4) 若い女性が愛知県に定着するために必要なこと

若い女性が愛知県に定着してもらうために必要なことについて、東京圏在住者・愛知県在住者ともに、「仕事と育児の両立を支援する企業等の制度や職場環境の整備」(東京圏:49.2%、愛知県:51.0%)の割合が最も高く、次いで、東京圏在住者では、「女性が活躍できる環境をつくる」(東京圏:34.9%)を上位に挙げている一方、愛知県在住者では、「保育所の整備など、子育て環境の充実」を上位に挙げており、その割合が東京圏を大きく上回っている(東京圏:26.6%、愛知県:40.6%)。

図表 15：若い女性が愛知県に定着するために必要なこと（複数回答）

